組織人数
5,239人 (1月末)
体調に注意しながら、声かけをして組織拡大につなげましょう。

建労いわて 増刊号

発行所
岩手県建設労働組合連合会
教宣部
盛岡市本宮一丁目７番27号
電話　019-631-3280
ＦＡＸ　019-635-4015
発行者編集長　藤井泰男

岩手県連 第56回定期大会 各専門部分科会報告

平成29年12月10日から11日に盛岡市繋「愛真館」において行われた、岩手県建設労働組合連合会第56回定期大会の各専門部分科会で、報告された意見等を左記に記載します。
なお、各専門部の下に記載しているのは、分科会座長の名前・所属組合名です。

組織部

髙橋 勝樹さん（北上）
座長　阿部 勝さん（金ケ崎）

◎組織
・法人事業所の若い人達にも声をかけて加入を勧める。
・青年世代が子育てに追われて参加しづらくなっていると意見があった。
・青年部の無い組織に未来が無い事を１人ひとり意識してほしいと意見があった。
・手軽に状況が知れる様なツール（ＳＮＳ等）をもっと利用出来る様にしてほしいと意見があった。
・県南地域の組織拡大の為にも連絡体制を取れるようにしてほしいと意見があった。
・主婦の会に役員の奥様達をもっと参加させてほしいと意見があった。
・60代の在籍人数が多いのでアンケートをとって、目的を明確にした上で単組ごとに活動をしてほしいと意見があった。

住宅技術対策部

菊池 一彦さん（遠野）
座長　小田島 貢さん（花巻）

◎住宅
・地域のお祭りに参加し、子供を対象とした住宅デーの木工教室を開催すると、集客率が上がると意見があった。
・かし保険の割引制度などの優遇が受けられるので、ゆうゆう住宅を利用してほしいと要請があった。
・全建総連リフォーム協会の加入者が50名になると建材の共同購入等が可能になるので、加入検討をしてほしいと要請があった。
・増改築相談員の更新講習が来年の７月開催予定と報告された。
◎技術
・青年技能競技大会では物資両面の支援体制を構築していくと報告があり、各単組に選手の派遣についてお願いがあった。

社保労働対策部

吉田 雅晴さん（盛岡）
座長　佐々木 正雪さん（釜石）

◎社会保障
・特定健診、保健指導等を知らない人が多くいるので、分かりやすいパンフレットを新聞などと一緒に配布してほしい。
・国からの補助金を現行水準確保する為、ハガキ要請を組合員一人２枚以上をお願いすることにした。
・国会議員への要請は引き続き年２回行う事とすることを確認。
・大手の建設現場に入る事が出来なくて、法人化、社会保険加入、協会けんぽへの加入を求められた場合は、所属の組合・県連に連絡をするように確認した。
◎労働
・建設関係者に石綿被害が集中しているので、無料で出来る胸部レントゲン検査を行ってほしいと要請があった。

共済財政部

細川 洋二さん（盛岡）
座長　臼澤 富久さん（大槌）

◎共済
・全労連共済への支払いに対する給付金の割合について質問があり、平成29年度は約50％の給付率と回答があった。
◎財政
・組合での事務手続きの大変さを理解して頂き、雑収入の労働保険事務経費について精査し再考してほしい。組合に頂く事務経費を増やしてほしいと意見があった。
・県連ファミリーカードの利用が少なく、知らない人もいるので、協賛店を増やし利用を促進していきたいと意見があった。
・組合費を上手く運用し、少しでも有効活用して行きたいと報告があった。

教宣部

佐藤 敏彦さん（一関）
座長　伊藤 啓一さん（八幡平）

◎教宣
・建労いわてへの投稿数が少ないので、各単組に記事投稿の協力をお願いした。
・ナイスショットの部分をカラー化してほしいという意見があった。
・ＱＲコードを記載して、画像や情報などを詳しく見れるようにしてはどうかという意見があった。
・機関紙「全建総連」には多くの組合の情報が載っているので、各単組により多くの購入をお願いしたいと要請があった。
・各単組にとても実用的な全建総連組合員手帳の活用をもっと促進してほしいと要請があった。

賃金税金対策部

八敷 祐哉さん（盛岡）
座長　小野寺 規久雄さん（水沢）

◎賃金
・キャリアアップシステムの活用について話合いがあり、キャリアの証明が仕事での信頼アップに繋がるのではないかという意見があった。
・次世代の雇用に繋がるのではないかという意見があった。
・職人のつどいなど多くの方が参加する場で説明してほしいと意見があった。
・マスコミの報道等、もっとアピールの場を増やした方がいいという意見があった。
◎税金
・税金対策の勉強会を開催してほしいという要望があった。

きずな

▼平成30年を迎え豪雪地域の西和賀は積雪が１３０センチを超え、新年早々除雪作業に追われる毎日。国道４号線沿線はわずかかの積雪に対し「この差は何なんだろう」と天気予報の雪マークを見るたびに思ってしまう。
▼雪国の履き物は長靴。出発時は無意識に長靴で出掛け目的地に到着して雪が無いことに気付き、恥ずかしい思いは毎度の事である。
▼しかしながら、私にとって雪の無い冬は考えられない。冬（雪）を苦ではなく楽しむ（共に生活する）でありたい。その一つが「大根の一本漬け」だ。あっさり塩味でパリパリの食感、これは西和賀地域ならではの食文化である。
▼昔はほとんどの家庭で大きな樽に漬け込み、年末頃から春先まで食べた。最近では若者の嗜好の変化や建物の断熱化、そして昔漬けていたお母さん達の高齢化によって漬ける家庭は減った。しかし、都市部をはじめ食べたいとの声は多く、町内の第三セクターに依頼し安定した味の漬物が完成した。雪深い西和賀を訪れ「雪あかりと一本漬け」をご堪能あれ。

【県連会長　髙橋清一郎】